

## < 図書紹介 >

### 『信じることから始まる探究活動のすすめ ～邪魔せず寄り添う「ゆるふわ」探究を始めよう！～』

川添健・後藤健夫・唐澤博・難波俊樹・飯泉恵梨子著 2024年 大修館

立命館大学大学院教職研究科2年次生 細見 夏希

未来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会やグローバル化が進展する社会の中で、子どもたち一人一人が幸福な人生を生きていくために求められる資質・能力を育成するものとして「探究」活動が重視されている。総合的な学習（探究）の時間をはじめ、各教科の学びのあり方についても、これまでの知識伝達型の授業から子どもが学びの主体となって探究していく授業への転換がはかられている。しかし、実際にどのように探究活動を取り入れていけばよいのかイメージが浮かばない人も少なくないだろう。また、知識の習得を軽視することにならないか、受験に対応できるのかといった懸念もあるだろう。本書は、そのような疑問や不安にこたえ、自らの実践のヒントを与えてくれる一冊である。

本書は3章構成となっており、各章を様々な経験をもつ著者らが担当している。第1章は「探究のすすめ」と題し、東京女子学園で校長として探究活動を重視したカリキュラム改革を行った川添氏によって、その改革の意図や内容が紹介されている。改革にあたって注意したのは偏差値にこだわらず「学びを楽しむ」ことだという。本章では学校全体における探究の取り組みの例を知ることができる。

第2章では「ゆるふわでいいじゃんー教えたがらない教員二人の対話」と題し、教諭である難波・飯泉が探究の考え方や探究を進めるにあたって必要なことを対談形式で述べて

いく。昨今の入試形態の変化に触れ、知識・技能と探究との二項対立を超えていくこと、教員がマインドチェンジをすることが必要であると。そして、マインドチェンジできるためには、「心理的安全性」のある組織づくりが必要不可欠であるという。本章では教員の立場から探究を進めていく上で変わらなければならないことや、そのために必要な条件を知ることができる。

最後に第3章では「探究は百人百色ー東京女子学園の実践」として、総合的な学習（探究）の時間として実際にどのような取り組みを行っているのかが紹介されている。そして、その探究活動において教師は生徒を「伸ばす」のではなく、「邪魔」をしないこと、生徒を「大きなお世話」から解き放つことが大切だという。

タイトルにある「信じる」とは誰を、そして何を信じるのか？副題の「ゆるふわ」探究とはいったい何なのか？本書を読むことで、これから探究を取り入れた授業を行っていくにあたり、授業方法だけでなく考え方を転換させるきっかけを得ることができる。

